

令和5年度
〈移動美術展—教室で楽しむ美術の世界〉
開催校募集要項



小杉放菴記念日光美術館オリジナルキャラクター ジンジャくんファミリー

日光市教育委員会と公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館では、日光市内の小学校および中学校を対象に、学校を会場とした〈移動美術展〉を開催しています。

これは、本物の作品と出会い、鑑賞する機会を子どもたちへ提供していくことを目的として、日光市が所蔵している美術作品を、学校の教室等に展示する事業です。

子どもたちの豊かな情操を養う絶好の機会ともなりますので、ぜひ、ご利用下さい。

〈移動美術展の内容〉

○基本事項

1. 移動美術展の開催を希望する日光市内の小中学校を会場に、日光市が所蔵している美術作品（約 20 点）を展示します。
2. 小杉放菴記念日光美術館の学芸員が必要に応じて、鑑賞の手助けとなる出前授業を行います。

※出前授業の実施日は、原則として、作品搬入（展示作業）日もしくは作品搬出（作品撤去）日で調整をお願いします。

※実施日決定後に、担当の先生と学芸員が授業内容等の打ち合わせをします。

○展示作品（選択可・別紙作家紹介参照）

■版画セット A 版画の「わざ」いろいろ

エッチング・シルクスクリーン・メゾチント・木口木版とそれぞれ異なる技法で制作する中林忠良・野田哲也・坂本好一・見目陽一の作品を紹介。「わざ」の違いによって、作品はどのように変わるのかを比較しながら鑑賞し、奥深い版画の世界に触れていただきます。

■版画セット B 【人物】このひとはだれ？

■版画セット C 【動物】びじゅつ動物園

■版画セット D 【風景】絵画で旅をしよう！

版画セット B・C・D は、日光市出身の彫刻家・手塚登久夫氏（1938-2015）が、生前収集された版画を児童・生徒の皆さまに親しみやすいテーマで分類・構成したものです。手塚氏の作品も併せて展示し、幅広い版画表現のみならず、彫刻家の創造の源にも触れていただくことが期待できます。

〈募集期間〉

○随時受付中

〈会期〉

○1 会場 2 週間以内

〈開催費用〉

○無料

〈その他〉

- 作品の展示にあたり、施設が可能でカーテンのある教室を 1 室ご用意ください。
- 作品の搬入・展示・搬出は、生涯学習課の職員と美術館の学芸員が行います。
- 作品は、生涯学習課が用意するイーゼルで展示します。
- 開催希望日が重複した場合には、申込み先着順とさせていただきます。
- 開催希望日をご希望に添えない場合は、調整させていただきます。
- 作品のみの展示も可能です。

〈開催申込み方法〉

- 別紙「移動美術展 開催申込書」に必要事項を記入の上、開催希望日の 1 ヶ月前までにメールで日光市教育委員会生涯学習課 文化振興係（shougai-gakushuu@city.nikko.lg.jp）にお申し込みください。

〈版画セットA〉作家紹介

○中林忠良（なかばやし・ただよし、1937- ）

東京都生まれ。1959（昭和 34）年、東京藝術大学美術学部絵画科に入学して油彩画を学びますが、のちに「銅版画の詩人」とも称された駒井哲郎に感銘を受け、銅版画の制作を始めます。数ある銅版画の技法の中で、銅版（銅の板）を酸溶液に浸して制作する「エッチング（腐食銅版画）」を用い、作品を制作します。

細やかな線でモノクロの世界が表現され、見る者に静寂な印象を与えます。

○野田哲也（のだ・てつや、1940- ）

熊本県生まれ。1965（昭和 40）年、東京藝術大学美術学部絵画科に入学、油彩画を学びます。同大学大学院では、小野忠重から木版画を学びます。

野田は、自分で撮影した写真を使い、「シルクスクリーン」と木版を組み合わせ、自身の日常の断片を描いた〈日記〉シリーズを主に手がけています。このシリーズは、題名は全て日記の日付になっており、作家の家族や知人の姿、旅先や日常的な光景などが描かれ、現在も制作が続けられています。

○坂本好一（さかもと・こういち、1932- ）

栃木県宇都宮市生まれ。最初は日本画を学びますが、33 歳頃から独学で版画を手がけるようになります。

坂本は、銅版（銅の板）に直接、線を彫る「メゾチント」と呼ばれる技法を用いて作品を制作します。魚や鳥、昆虫などを細やかに観察して描かれた作品には、小さな生き物に対する深い愛情が表現されています。

○見目陽一（けんもく・よういち、1949- ）

栃木県茂木町生まれ。茂木高等学校を卒業後、駒込美術研究所でデッサンを学びます。1981（昭和 56）年第 31 回日本板画院展で新人賞、ニュートン賞を受賞し、現在も日本板画院を中心に活躍しています。

1997（平成 9）年から 1998（平成 10）年にかけて、下野新聞に『下野の野仏』を連載。栃木県内に点在する野仏を題材に、硬質な木をビュランと呼ばれる刃で彫る「木口木版」という技法で、優しく温かみのある石仏と豊かな自然の姿を表現しました。

